

神戸学院大学 中期行動計画 実行計画(第4層) 2014年度達成度評価表 分野:大学運営

		評価	理由
中期計画	1 基本方針の策定と実行		
実行計画	(1) 中期行動計画の実行と検証を行う。	B	計画の実行や検証は行われているが、中期行動計画の全体像を把握しづらく、各教職員がそれぞれ業務に関する計画のみの進捗状況を把握しているに過ぎず、見直しが見られる。
	(2) 意思決定のプロセスの明確化を図る。	-	今年度の計画は無い。
	(3) 既存学部を整備と全学収容定員の再編を行い、新学部・新学科の設置を検討する。	B	各学部において収容定員の検討を行っている点、編入学定員の削減により、編入学定員に対する編入学生比率が低いことについて改善された点は評価できる。
	(4) 有瀬キャンパス(KAC)とポートアイランドキャンパス(KPC)の効率的な利用を促進するため、学部移転を基本とした新学部・新学科を含めての学部再配置を行う。	B	スケジュールどおり計画は2014年度で完了したが、学部移転後の問題点を洗い出し、改善する必要がある。
	(5) KPCへの本部機能移転とD号館・体育館建築を検討する。	B	スケジュールどおり建築が完了した点は評価できる。移転後の問題について洗い出し、改善する必要がある。
	(6) 中長期計画実行のための財政計画を策定する。	B	健全なキャッシュ・フローに留意した資金繰表を作成し計画通り積立を実行した点、中長期計画の中で、帰属収支差額を視野に入れて予算編成方針を策定した点は評価できる。もう少し具体的な数値目標を立ててみてはどうか。
中期計画	2 内部質保証システムの構築と実施		
実行計画	(1) 大学認証評価も視野に入れつつ、大学独自の自己点検・評価を毎年行う。	B	本学独自の自己点検・評価を毎年行っており、継続的にPDCAサイクルを回している点においては評価できる。ただ、報告書作成だけが目的になっているように見受けられる。
	(2) 上記を達成するため、作業部会を含めた自己点検評価制度委員会の体制を再検討する。	B	2013年度以降は新体制で自己点検評価を行っている点は評価できるが、新体制後の見直しも必要である。
中期計画	3 効率的な財政運営		
実行計画	(1) 収入源の多様化を図り、帰属収入における学生生徒納付金以外の増額を目指す。	B	いずれも単年度で実績を生み出すことが困難な計画であるが、継続的に実行している点は評価できる。2017年度までに帰属収入における学生生徒納付金以外の増額に期待する。
	(2) 予算編成のあり方を再検討し、支出およびその配分の効率化を図る。	C	予算決算検証等、予算編成の透明化を図っている点は評価できるが、人件費に関する計画は2014年度末時点でまったく進んでおらず、また、2015年度の実行も明記しておらず期待できない。
中期計画	4 情報の集約・共有の促進		
実行計画	(1) 教職員間、教員間、職員間の情報共有の実態を検証し、その改善に向けた新たなシステムの導入を検討する。	C	事務局長懇談会の開催については評価できるが、ペーパーレス化については、昨年度から計画が進んでいない。なるべく予算が抑えられるよう検討し、計画を進めるべきである。
中期計画	5 戦略的広報活動の推進		
実行計画	(1) 募集活動全般を見直し、体系的な学生募集体制を構築し、志願者増を図る。	B	おおむね2014年度の年次目標を達成しており、様々な媒体による広報を行っている点は評価できる。今後、受験生だけでなく、保護者にも興味を持ってもらえるような情報を発信してほしい。また、動き出したばかりであるが、若手職員による募集活動への協力体制を整えることで、さらなる充実を図ってほしい。
	(2) 大学のブランド力向上のために大学広報を推進する。	B	魅力となる本学の強みを様々なメディアをとおして発信している点は評価できる。今後は学部・研究科とのさらなる連携を図り、他大学との差別化を目指してほしい。
	(3) 本学に対する構成員の関心を高め、理解を促すために学内広報を推進する。	A	学内構成員が様々な媒体から情報が得られるように工夫されており、評価できる。
中期計画	6 効率的で機動的な組織への見直し		
実行計画	(1) 事務組織の現状を検証し、キャンパス間業務連携や役割の役割を見直す。	B	いずれも、学部移転後、本部移転後の問題点を洗い出し、検証を継続する必要がある。
	(2) 学部にも所属しない教員の任用制度の導入を検討する。	-	今年度の計画は無い。
中期計画	7 労働環境の整備		
実行計画	(1) よりよい就業環境の実現に取り組む。	C	2014年度末時点でほとんどの計画が未実行のままであり、評価できない。至急の対応を望む。
	(2) 「期待される教職員像」に基づいた人材育成制度の確立に向け、全般的な検討を行う。	C	研修制度については通信教育を行っている等評価できるが、ほとんどの計画が2014年度末時点で未実行のままであり、早急な対応が望まれる。
中期計画	8 教育後援会・同窓会との連携強化		
実行計画	(1) 保護者等からの大学への要望をより吸い上げるシステムを検討し、教育後援会との連携を深める。	A	100円朝食への取り組みは評価できる。しかし、100円朝食以外の要望がないのか、吸い上げるシステムが不十分なのか、改善が求められる。
	(2) 課外活動、キャリア支援等において、在学生と卒業生の結びつきがより強化されるよう、同窓会との連携を深める。	B	同窓会と大学の懇親会や、SNS等を利用して情報交換がよくなされており、同窓会からの意見を検討する機会も設けており評価できる。

評価 S: 目標よりはるかに上回る、A: 目標をやや上回る、B: おおむね目標どおり、C: 目標をやや下回る、D: 目標をかなり下回る